



生産技術 モノづくり力の抜本的改善

Drastic Improvement of Manufacturing

Kenichiro Yamanishi

要 旨

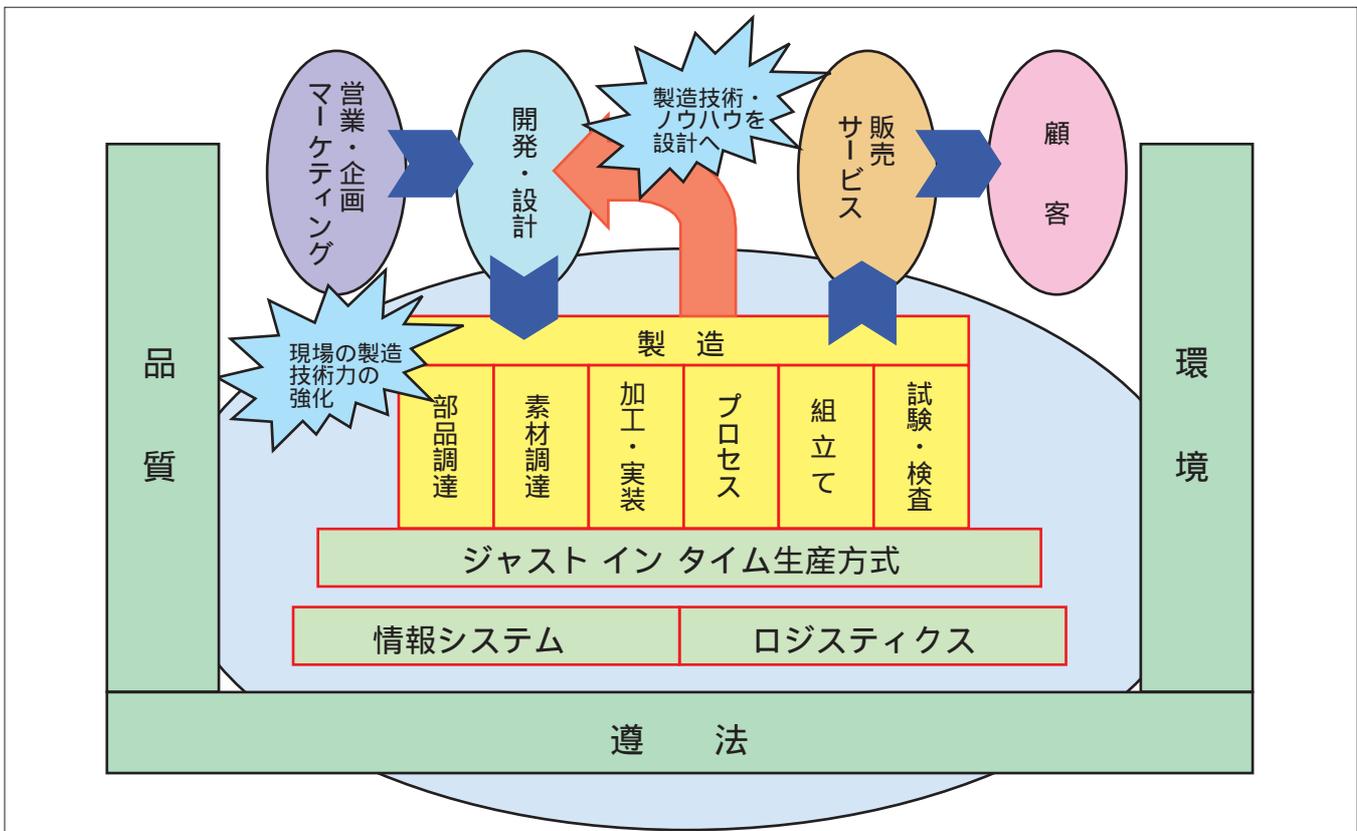
かつては、日本を始めとし、韓国、台湾、香港、シンガポールなどが先進国から導入した技術と生産性に低賃金を組み合わせることによって経済発展を実現した。だが、もはやそのようなことが不可能になったこの十数年、三菱電機は、日本が再び「モノづくり日本」として復活するためには何が必要となるのかを模索してきた。

1994年からは、当社の生産システム本部が中心となり、モノづくり力を抜本的に改善するための施策を導入し、特にここ数年は、現場の製造技術力の高度化と製造ラインでの徹底した無駄の排除、及び資材調達から客先納入まで含めた生産管理力の高度化、現場の幅広い製造技術・ノウハウをタイムリーに設計に生かすための流れを作ること、構造設計によるあるべき姿の追求と、これを具現化でき

る革新的製造技術開発による独自のキーパーツの実現、の3項目を推進してきた。

現在、これらの施策が徐々に実を結びつつあり、ジャストインタイム生産方式の全社展開による棚残縮減、極微細欠陥解析技術をベースとした半導体デバイスの歩留り向上、ポキポキモータに代表される独自のキーパーツの製品化、エコプロダクツの実現による環境負荷の低減、等の成果を全事業部へ展開している。

この特集号では、三菱電機グループの生産技術への取り組みの一端を紹介するとともに、筆者の思いも含めて、モノづくり力を抜本的に改善するために、今後の生産技術が果たす役割の重要性について述べる。



生産技術者の活躍分野

モノづくり力の強化のためには、現場の製造技術力強化と無駄の排除、生産管理力の高度化、生産技術者が現場の幅広い製造技術・ノウハウをタイムリーに設計に生かすための流れを作ることが必要である。